



市川第 20081015-0150 号

平成 20 年 10 月 20 日

国土交通省道路局長 様

市川市長 千葉 光 行



今後の道路行政についての意見・提案の提出について（回答）

日頃より市政にご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

平成 20 年 9 月 19 日付け国道企第 37 号にてご依頼のありましたこのことにつつま

して、別紙のとおり回答いたします。

今後の道路行政についての意見・提案

様式 ①

①道路行政全般について改善すべき点、要望や提案など

千葉県 市川市

「都市計画道路の整備」

○用地の買収を伴う道路整備は、時間と費用がかかる。都市計画道路については、事業認可を受けることにより強制力がある反面、認可前は許可を受けることにより建築可能となるなど、財産権が優先されている。その結果、事業認可を受けても補償問題など交渉が長引いてしまい、余計な経費がかさむ事になる。このようなことから、事業の速攻性のため優先度の高い事業等については、事業認可前でも沿道の建築計画や開発計画は併せて事業認可後と同等に用地の取得等が行えるよう次のような提案を行う。

- ・都市計画法第55条の建築許可しないことができる区域の指定について、市長に権限委譲するなど容易に行えるようにする。
- ・事業認可前でも容易に家屋補償や用地買収が行なえるよう、先買いに対しても国庫補助が得られるようにする。
- ・都市計画区域内は、事業認可前でも租税特別法の土地譲渡の減免措置について5000万円控除とし、税務署との協議も不要とする。

「電線類地中化の推進」

○バリアフリーや景観など、公共空間の質の向上が求められる時代になった。電線類地中化は防災面等から見ても国策として推進する必要がある。これらを進めるために次のような提案を行う。

- ・少なくとも市街地内の国道は全線地中化することとし、緊急輸送道路については優先的に行うこととする。
- ・本来、電線類地中化は道路管理者ではなく電線類管理者が主体的に行うべきであり、道路管理者は、電線類の道路占用を認めないことなど、電線共同溝の特別措置法や道路法などの法改正を一体的に行うべきである。

「道路予算の充実」

- 災害時における広域的な救援ルートを確保するための重点投資。
- 交通安全対策の重点施策への重点投資。
- バリアフリー重点整備地区への重点投資。
- 段階構成に応じた道路ネットワークの拡大整備(空港、港湾、IC、内陸工業地域等の広域幹線道路のアクセス強化)への重点投資。
- WHOの提唱する健康都市づくりのための積極的な支援

参考:「健康都市」(WHO)

「都市の物的・社会的環境の改善を行い、そこに住む人々が互いに助け合い、生活のあらゆる局面で自身の最高の状態を達成するために、都市にある様々な資源を幅広く活用し、つねに発展させていく都市」を言う。

今後の道路行政についての意見・提案

②-1 地域の現状と抱える課題

様式 ②

千葉県 市川市

○現状

- ・江戸川を隔て、東京都と隣接することから、都県を結ぶ交通の要衝となっている。
- ・市北部は外環道路の整備の遅れにより都市計画道路の整備率約28%と低く、一方、南部地域は土地区画整理等による整備、国道357号の整備が進んだことから整備率96%となっている。
- ・江戸川渡河部の交通容量不足、国道14号の未整備及び並行する京成本線の踏切遮断などを起因とする慢性的な渋滞が発生している。
- ・外環道路の供用に伴い関連道路の交通需要増加が予想される。
- ・主要道路の渋滞に伴い生活道路内に通過交通が進入し事故が増加。
- ・慢性的な交通渋滞により路線バス利用が低下傾向にある。
- ・自転車利用者の増加に伴う駐輪場不足、放置自転車・交通事故の増加。
- ・駅前広場等交通結節点における違法駐車、放置自転車、路上荷捌き等の問題。

参考：道路整備の状況

都市計画道路の配置密度：標準値→3.5km/km²、市川市→2.4km/km²
都市計画道路の整備率：42%（南部地域→96%、江戸川以北→28%）
国県道の2m超の歩道：36%（全延長約49kmのうち、約18km）

○課題 「市川市総合交通計画（平成16年3月）」より引用

- ・将来交通を踏まえた道路渋滞の解消
- ・京成本線断面における道路渋滞の解消（踏切改善含む）
- ・公共交通の利便性向上・利用促進
- ・自転車交通が多い地域特性を活かした自転車交通体系の形成
- ・バリアフリーを踏まえた交通結節点の充実
- ・道路の機能分類に伴う生活道路の充実
- ・外環道路、北千葉道路の早期整備

今後の道路行政についての意見・提案

②-2 地域の目指すべき将来像

様式 ③

千葉県 市川市

○市川市総合計画(平成13年4月)

将来都市像:「ともに築く 自然とやさしさがあふれる 文化のまち いちかわ」

まちづくりの基本目標と施策の方向(道路交通関連抜粋)

基本目標:安全で快適な魅力あるまち

施策:・安全で安心して暮らせるまちをつくります。(都市基盤の整備を進め、災害に強いまちづくり)

・快適な暮らしを支え、質の高い都市基盤整備を進めます。(人にやさしいまちづくり、広域的な幹線道路と連携した地域内道路の整備)

基本目標:人と自然が共生するまち

施策:・環境への負荷のすくないまちをつくる。(自動車排出ガス対策等省資源、省エネルギーの推進に取り組む)

○市川市都市計画マスタープラン(平成16年4月)

将来都市像:「ともに築く 自然とやさしさがあふれる 文化のまち いちかわ」

都市づくりの目標

・都市基盤が整い安全に安心して暮らせる都市づくり

・都市活動や日常生活を支える交通環境の充実した快適な都市づくり

まちづくりの整備方針

・安心して暮らせる環境づくり(災害に強い安全なまちの形成、誰もが生き生きと暮らし活動できるまちの形成など)

・快適な交通環境づくり(交通拠点における機能の向上、人や環境に配慮した交通環境の形成など)

今後の道路行政についての意見・提案

③道路施策の重点事項(代表事例、期待する効果や評価等)1/2

様式 ④

千葉県 市川市

○重点事項	○代表事例	○期待する効果や評価等	○その他
活力分野 ○国際競争力強化のための交通サービスの向上 ○地域活力の向上 ○都市交通の快適性、利便性の向上	○広域道路網の整備 ・東京外郭環状道路、北千葉道路などの高規格幹線道路の整備 ○鉄道の立体化 ・京成本線立体化事業の実現(国府台駅～鬼越駅間) ○江戸川架橋の整備 ・大洲橋、押切橋、行徳橋、妙典橋 ○都市計画道路の整備 ・外環受入れ時の要望路線(4・4路線)の整備 国・県(3.4.13、3.4.19、3.4.21、3.5.28) 市(3.4.12、3.4.14、3.4.23、3.6.32) ○国県道の交差点の改良 ・インターチェンジ周辺(市川IC、原木IC) ・国道14号、国道357号、国道464号 ・県道市川松戸線、若宮西船市川線、市川柏線他	○市内の中心部に集中する自動車交通の分散化 ○円滑な交通処理の実現 ○既存の渡河橋に集中する交通の分散化 ○外環道路供用時の交通需要への対応 ○円滑な交通処理の実現	外環道路受入れ時 千葉県知事に行った 9分類22項目の要望 事項
安全分野 ○大規模な地震、火災に強い国土づくり ○総合的な交通安全対策及び危機管理の強化	○緊急避難経路の整備 緊急輸送道路の橋梁耐震補強として、京葉道路に架かる6橋の対策を完了し、JR武蔵野線に架かる11橋梁もH25までに完了予定。また、市の公共施設の耐震補強に合わせ幹線市道及び重要市道に架かる17橋の耐震補強を進める。 ○国県道の無電柱化 国道14号等緊急輸送道路については無電柱化が必要である。 ○交通安全対策 事故危険箇所(警察庁指定)の対策のほか、二俣架道橋など市道における危険箇所への対策	○防災面の向上 ○防災面の向上 ○交通事故の減少	

今後の道路行政についての意見・提案

③道路施策の重点事項(代表事例、期待する効果や評価等)2/2

様式 ④

千葉県 市川市

暮らし・環境分野			
○少子・高齢社会に対応した子育て環境、バリアフリー社会の形成	○バリアフリー化整備 バリアフリー法に定められた重点整備地区内の整備 (市川駅、本八幡駅、行徳駅、南行徳駅)	○交通結節点の機能・アクセス性の向上	
○良好な景観の形成、災害に強い国土づくり	○電線類地中化事業 寺町道り、中山参道、市道0124号(日出学園)等	○防災面、景観面、バリアフリー等の向上	
○良好な生活空間の形成	○歩道、自転車道整備 都市計画道路等を中心とした歩道、自転車道ネットワークの形成	○障害者、高齢者対策、環境負荷の軽減	
	○道路整備に併せた下水道の整備 下水道の敷設用地としての必要性	○環境負荷(水質汚染)の軽減	
○地球温暖化の防止	○歩道、自転車道整備 鉄道駅を中心とした歩道、自転車道ネットワークの形成	○モーダルシフトによる温室効果ガス発生の抑制	
	○道路交通容量の管理適正化 渋滞解消によるアイドリング時間の短縮	○温室効果ガス等発生の抑制	
○循環型社会の形成	○再生資源の利用促進 道路工事等への再生資源使用率向上とPR	○循環型社会の推進	
○ICTの利活用	○ユビキタス社会を見据えた道路台帳の電子化	○移動の円滑化の向上	WHO,健康都市づくり